

われる暹羅国よりの酒について論ずる一方、琉球の泡盛との関係について述べている。

(7) 冒坤李陀屋 冒坤について東恩納氏はオークン、という位階、李陀屋は名前、とする(三九一)注(4)の『東恩納』一八六頁)。(三九一四)には坤李陀屋とあり冒の字がない。坤は位階名のクーン(Khun)であり、岩生成一『南洋日本町の研究』昭和四十一年 岩波書店、一五六―七頁を参照。また(三九一一)注(5)にあげた使者名の例を参照。

(8) 西洋紅布 西洋布の一種か。(三九〇二)注(5)参照。

1-39-13

暹羅国の長者奈羅思利の、来船に託して礼物を贈る書簡

(一四八〇、四、一二)

暹羅国の長者、名^①下奈羅思利、頓首して百拝す。

貴国王万々歳。純誠仁徳の心もて毎年咨来して絶えず。区々として思念して休^やまず。隻船を駕して国に到り謝恩せんと欲するも、国に賢者の海道に知達して貴国殿下に至りて拝謝す可きもの無きを苦思す。今、以て来船に寄せて、香花白酒一埕・紅酒一埕を上^{たてまつ}る。

成化十六年(一四八〇)四月十二日 奈羅思利、百拝して仰望す

注* (三九一一) 総注参照。

(1) 名下 名前を…というもの、の意。

1-39-14

暹羅国の長史蕭奈悦本の、返礼の書簡(宛先、年月日欠)

暹羅国の長史の蕭奈悦本、誠に上命を奉ず。

去歳に宝船^②前來するも火焼して俱に空しくするは天命に係由る。

本国王、正使奈悶英謝替・副使奈曾謝替・通事奈榮等を差^{つか}わし、海船一隻を掌駕し、特に正使澹馬巴・副使社納奇・通事鄭興等を送り、咨文を順齎し並びに方物を奉り回国せしむるに、風水便ならざるに因り暹羅に回還し、押冬^①して修船す。今、將に打発し前みて回国せしめんとするに、又端^{はた}して貴国王、正使倪実・通事鄭珞等を差わし、咨文並びに奉謝の礼物を順齎し、及び管事列位に送れば、俱に已に收受を行う。洪恩の咨、洪厚の徳を感鑑し、事例に仍照し就将^{たぢ}に理物^⑤し来使を打発して回還せしむ。賢王、以て両国の一家に同じきが如きの好みもて往来し通情するを見よ。薄意を留むるを乞う。鑑納せよ。不宣。

今、回奉を開^しす

屋把摩訶薩陀烈

縁鎖袱一匹

坤亨陀屋

香花酒一埧

奈勾歌沙

上水花布一十條

一件

暹羅国、正使奈悶英謝替等の船隻を差わす外、礼物

一、蜜林橋香白酒二十一埧 一、蜜林橋香紅酒二十九埧

注*〔三九一一〕総注参照。本文書には日付がないが、成化十五年（一四七九）春の発信と思われる。

（一）蕭奈悦本 〔三九一二〕で回奉の礼物をことづけた長史奈悦

本と同一人か。

（二）宝船 正使澹馬巴等の琉球船。

（三）杜納奇 あるいは杜納奇か。

（四）押冬 冬の間とどまる。

（五）理物 理貨に同じ。（税関などで）荷を検査する。

（六）緑鎖袱 〔三九一二〕注（四）参照。

（七）上水花布 花布はふつう更紗のこと。上水は地名であろう。

『瀛涯勝覽』暹羅国の条に「国之西北去二百余里。有一市鎮。名上水……」とある。上水がいずれの場所を指すか、〔三九〇九〕注（五）に引用する A. Kobata, M. Matsuda, pp. 192-3.

は諸説を紹介している。また、これとは別に Mills, J. V. G. 1970. *MA HUIAN Ying-yai Sheng-lan translated and edited*

1970. *MA HUIAN Ying-yai Sheng-lan translated and edited*

by J. V. G. Mills. Cambridge, pp. 105-6. はその距離から上水はロップリ (Lopburi) とする。

1-39-15

滿刺加国の樂索摩拿より琉球国王あて、返礼の書簡

（二四八一、三、〇）

滿刺加国、琉球国王殿下に回奉す。

道契^①して万民を撫字す。太山の瞻、政は優なるを得、清濁と遊

び廉恥^{はげま}を激し、才名は類い亡^なし。台端に布き正色^②を推し、憲度、

已に伸ぶ。威靈は日月を双佩し、天命を参照して人心を順わしむ。

錦綉の佳質^③、身ら太平の遠きを致し、世代、大明国に親朋なり。

兄王に奉謝す。乾坤の福祿は万々の子孫を榮修し、天幾^④の命運

は太平の景を享く。茲^{こゝ}を以て使臣・通事等、前来し船隻・礼物も

て国に到る。平安にして並びに法として所屬に買売を禁ずる無く、

早^{すみ}やかに令勅して金花御酒を封じ、衆臣を登途し回国せしむ。愿^{つひ}

んで山河に坐し万歳山呼す。

樂索摩拿、琉球国王殿下に拝謝す 馬安山^⑤より到す

今、礼物を開す

吉地布二十個^⑥

林母拿十二個^⑦

星幾措十四個^⑧